

## (1)学校経営の改革方針における個々の教育活動の評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
防災・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルの理解。</li> <li>防災訓練や防災教育の充実を図る。</li> <li>個人情報管理を徹底する。</li> <li>いじめ、体罰等防止について取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルを更新し、全職員で確認した。</li> <li>地震、火災想定防災訓練を4回実施した。</li> <li>寄宿舎利用生徒対象に地震、火災想定訓練を2回実施した。</li> <li>各学部で防災教育を行った。定期的に防災ニュースを発行した。</li> <li>通学生の非常時の備品(水・食料・常備薬・着替え他)を学期ごとに保管している。</li> <li>個人情報やOSサーバーで管理する。</li> <li>パソコンやメモリーなどの保管場所を一覧表にして確認した。</li> <li>いじめのケースはなかった。</li> <li>体罰のケースはなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の安全点検で防災/安全について常に注意を持って取り組んでいる。</li> <li>四日市南消防署の職員を講師に防災に関する研修を行い、実践的に取り組むことができた。毎年行う必要がある。</li> <li>スクールバス運行では定期的に安全運転に関する研修に取り組んでいきたい。</li> <li>いじめ、体罰等防止に対する研修を行う。職員間の連携を図っていきたい。</li> </ul>
キャリア教育・自立支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の教育支援計画の充実を図る。</li> <li>小学部から高等部専攻科までの途切れのないキャリア教育に取り組む。</li> <li>小学部、中学部で系統的な社会体験を計画的に行う。</li> <li>高等部では就労につながる体験を行う。</li> <li>進路学習会、進路懇談会、進路見学会などを行う。</li> <li>保護者及び教職員対象の進路研修を実施し、進路支援に対する理解啓発を図る。</li> <li>児童・生徒・保護者の進路支援、教職員の進路指導のための進路(地域資源)マップの更新。</li> <li>生徒を対象に一般就労に向けた職業ガイダンスを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の実態や適性、希望等に基づいて進路支援に努めた。</li> <li>児童施設に措置されている生徒の働く場と生活の場を同時に確保することが困難な状況になっている。</li> <li>小学部中学部で校外学習、高等部で職場実習を実施。</li> <li>高等部で地域ごとのグループ別に事業所見学を行った。</li> <li>進路説明会や事業所見学を保護者対象で行った。</li> <li>「先輩に聞く」をテーマに進路学習会を行った。</li> <li>関係者会議を各学年で年1回行った。</li> <li>卒業生修了生全員進路内定した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童施設措置の高等部の生徒は地域移行に向けて早期に進路懇談会・職場体験実習を実施している。生活と就労の場が決まるのに時間を要する。</li> <li>『聖母の家学園キャリア教育プログラム』に沿った具体的な教育計画ができた。</li> <li>保護者に向けて、小学部中学部の段階から進路支援部から情報を発信し、意識づけとなった。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的にホームページの更新を行う。</li> <li>公開授業、学校説明会の実施。</li> <li>学校公開日の実施。</li> <li>学園だよりの発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ、フェイスブックを定期的に更新した。</li> <li>年3回の公開授業、学校説明会の参加者合計219名。教育相談101件。</li> <li>研修と見学では、三重大学ゼミ生、愛教大学ゼミ生、の来校があった。</li> <li>年に3回学園だよりを発行した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ、フェイスブックの閲覧が増えた。</li> <li>本校の様々な活動について、今後も関係機関や地域に発信を継続していく。</li> <li>高等部専攻科の存在が少しずつ広まってきた。他府県からの問い合わせもあった。</li> </ul>
専門性の向上とセンター機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善の取り組み。</li> <li>校内研修の定期的な取り組み。</li> <li>校内研究授業の実施。</li> <li>外部研修への参加。</li> <li>校内研修の充実のため外部講師を招聘し実施していく。</li> <li>地域交流活動の実施。</li> <li>年6回の学習会活動の開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IT機器・学校LANを導入し授業実践に取り組んでいる。</li> <li>各学部会で授業内容について検討する機会をもった。</li> <li>各学部会で専門性向上を図るための研修に取り組んだ。</li> <li>年1回の校内公開授業を行った。</li> <li>発達、医療に関する研修を外部講師の指導の下行うことができた。</li> <li>学習会活動では見学会や講演会を企画している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善のための教材研究については継続して取り組む。</li> <li>月に1度プチ研修を継続する事ができた。</li> <li>外部への研修を積極的に奨めることができた。</li> <li>学習会活動への参加者が徐々に増え、参加者同士の交流の場となった。</li> </ul>
教育課程の充実等	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の実態に沿った教育内容の検討し、新学習指導要領の理解を更に深めていく。</li> <li>16年間の教育課程の系統性を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学部で教育内容について検討を行っている。</li> <li>研修委員会が中心となり教育課程を整備する事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「16年間の聖母の家学園教育課程」の更新を行いさらに系統的に支援する必要がある。</li> <li>4年ごとに発行する研究紀要ができた。4年間の振り返りから次の4年に向けての研修の弾みとなった。</li> </ul>
働きやすい職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常業務や会議の効率化に向けた取り組み</li> <li>定時退校日の設定。</li> <li>教職員の健康状況の把握に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議報告書、たより等のペーパーレス化が定着。</li> <li>定時退校日について、引き続き模索した。</li> <li>『ストレスチェック』を10月に教員対象に行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議等の会議での提案内容に工夫が必要であった。</li> <li>毎週木曜日にノー会議デーを設定したが、完全実行は難しかった。今後も会議のスリム化を検討していく必要がある。</li> <li>教職員全員の健康状況と過重労働の状況を把握し、それらの改善に努力した。</li> </ul>

(2)組織の状態の評価結果	
アセスメント診断から明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創始者の思いを大事にする教育で教職員が一致できる。</li> <li>・長く特別支援教育に携わった教員が多い。</li> <li>・職員の異動がないので長期に寄り添った教育支援ができる。</li> <li>・小学部から専攻科まで全ての児童生徒のことを全職員が分かる。</li> <li>・特別支援学校教諭免許取得者がほとんどで教育の専門性を発揮しやすい。</li> <li>・高等部専攻科を設置しているのでゆっくりと人間づくりをし、卒業後の進路を切り拓いていくことができる。</li> <li>・保護者、本校支援者と教職員が共同して教育を創造できる。</li> </ul>
弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部定員があるので、小中学部への転入希望者への対応ができづらい。</li> <li>・施設措置入所＝転入学の生徒数が年によって異なり、人手の確保が難しい。</li> <li>・旧校舎の老朽化。</li> <li>・特別支援教育の経験が短い教員への指導が難しい。</li> <li>・教職員の外部における研修の不足。</li> </ul>

### (3)組織力向上のための取り組み(改善策)

次年度に向けた取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部から高等部専攻科まで、『16年間の教育課程』への取り組み。</li> <li>・児童生徒への日常的な学習指導の充実。保護者との共同。</li> <li>・IT機器を使った学習への取り組み。</li> <li>・安定経営のために児童生徒数の確保を全職員で創意工夫を凝らした取り組みの展開。</li> <li>・様々な分野の関係機関との連携。</li> <li>・内外で研修の機会を増やし、教職員の専門性を強化。</li> <li>・教職員が健康でやりがいを感じることができる職場づくり。</li> </ul>